

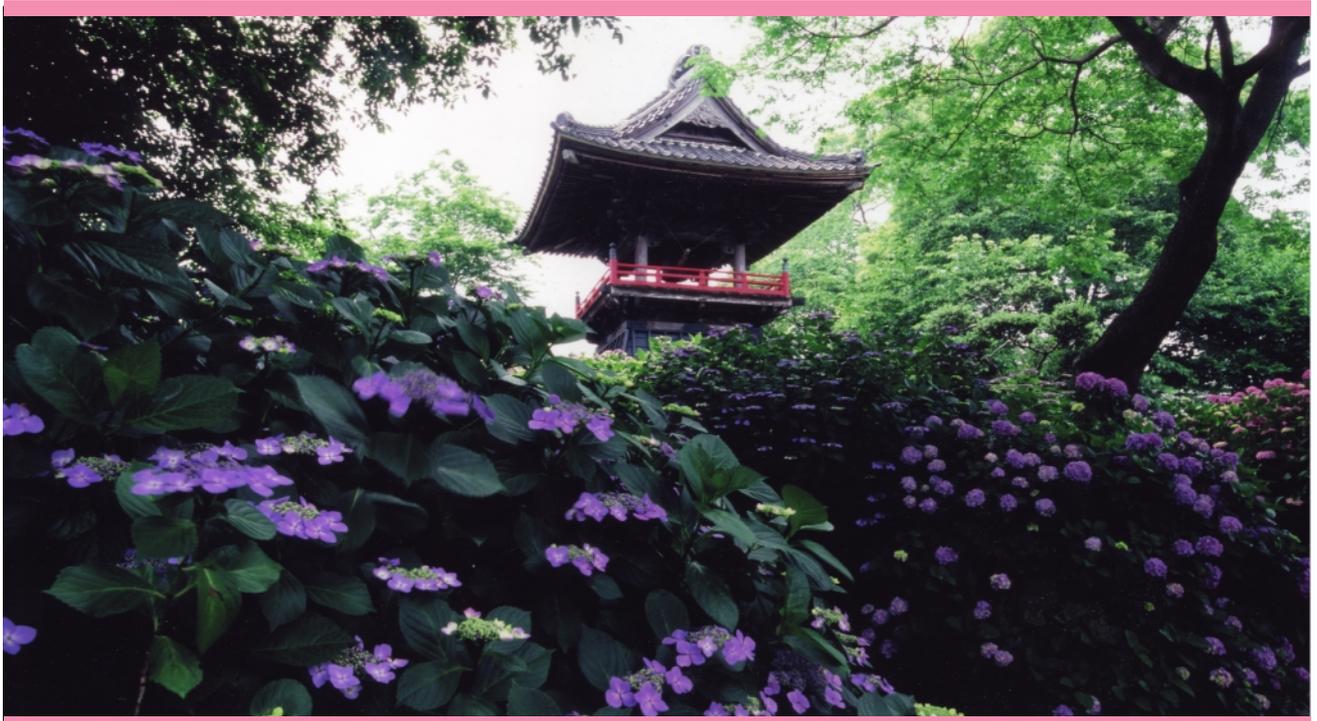
くまがや 市議会だより

Kumagaya City Council Newsletter



第15号

問い合わせ 熊谷市議会事務局 〒360-8601 埼玉県熊谷市宮町二丁目47番地1 ☎048-524-1111(内線412~416)
E-mail gikaijimukyoku@city.kumagaya.lg.jp http://www.city.kumagaya.lg.jp/shigikai/



紫陽花の咲く頃 (第4回熊谷市観光写真コンクール入賞作品：撮影 半田 充右氏)

永井太田地区の能護寺は「あじさい寺」として親しまれ、毎年6月中旬から7月上旬頃は、境内に120種類800株をこえる色とりどりのあじさいが咲き乱れ、県内外から多くの見物客が訪れます。

鐘楼の鐘は、元禄14年(1701年)に鑄造され、鐘の音は荘厳です。

主な内容

- ☆3月定例会の概要・・・2
- ☆一般質問(要旨)・・・3～7
- ☆可決された主な議案・・・8
- ☆委員会での主な質疑・・・8

12月定例会から議会インターネット中継がスタートしました！

閲覧は熊谷市議会ホームページから

議会を傍聴しましょう。次の定例会は6月5日からの予定です。

熊谷市議会は「チーム・マイナス6%」に登録し温暖化防止に取り組んでいます。





3月 定例会

平成21年度一般会計・特別会計・企業会計予算
熊谷市自転車放置防止条例の

一部を改正する条例などを可決

三月市議会定例会は、三月二日から十九日までの十八日間を会期として開かれました。

この議会では、平成二十一年度一般会計・特別会計・企業会計予算のほか、「熊谷市自転車放置防止条例の一部を改正する条例」「熊谷市名誉市民の推挙について」などの市長提出議案三十七件を原案可決し、一件に同意しました。また、議員提出議案一件と、委員会提出議案一件を、それぞれ原案可決しました。

三月定例会の概要

初日（三月二日）の本会議では、市長から「平成二十一年度は、本市が県北初の特別市としてさらなる飛躍をとげる記念すべきスタートの年となる。これは単に人口二十万人という規模の問題ではなく、今後、本市が地方分権の一翼を担うリーダー都市としての自覚と責務を伴うということであり、今まで以上に安定した行財政基盤のもと、快適な環境の中で生き生きと生活できる自立都市の構築が求められるところである。」

三位一体の改革の進行とともに財政運営にひっ迫する自治体が数多く出現する事態となり、加えて、昨秋以降の過去に例を見ない世界不況の波は、これに拍車をかけ、対応に苦

慮せざるを得ない事態になっている。こうした中であつて、本市の実質公債費比率等の健全化判断比率については、良好な状態にあると考えている。このような状況下にあつて、新年度予算の編成は、市税の落ち込みを中心とした歳入の減少と、扶助費を中心とした歳出の増加とをいかに調和させ、市民ニーズに添えていくかが大きなポイントであるが、このような状況下であるからこそ行政サービスの低下といった市民生活への影響を避け、市民生活の安定や、市内経済の活性化に資するよう、信頼性の高い行政、市民が誇れるまち、幸せが実感でき、笑顔あふれるまちを目指して編成した。とりわけ子育て環境の整備、市内経済の活性化および中小企業支援、安心安全対策、

環境対策の四つの分野には、特に重点配分を行い、限られた財源を有効に活用するため、実施事業のメリハリづけをする方向で編成した。「旨の施政方針が述べられました。」

五日の本会議では、条例案や予算案に対する質疑が行われました。そして各議案は、所管の常任委員会に付託されました。

六日には、総務文教常任委員会および福祉環境常任委員会において、また、九日には、市民産業常任委員会および都市建設常任委員会において、付託された議案についてそれぞれ審査が行われました。

十二日、十三日、十六日の三日間は、十八人の議員による市政に関する一般質問を行ったほか、十六日の本会議冒頭には、金子兜太氏を名誉市民に推挙する議案が上程され、全会一致で同意、その後議場に金子氏をお招きして記事の贈呈式が行われました。

最終日（十九日）の本会議では、各委員長から案件審査の経過および結果が報告され、質疑討論を行い、市長提出議案をすべて原案どおり可決し、三月定例会は閉会しました。

名誉市民に金子兜太氏

本市在住の日本を代表する俳人で、文化功労者の金子兜太氏に、このたび名誉市民の称号が贈られました。

金子氏は、銀行に勤める傍ら、精力的に創作活動を続けられました。退職後は俳句に専念され、前衛俳句の旗手として活躍。これまで多くの代表句を詠まれています。





市政、ここがポイント！ そこが知りたい！

一般質問（要旨）

一般質問は、定例会で、議員が議案に関係なく市政全般について、市の方針をただすものです。三月定例会では、十二日、十三日、十六日の三日間、次の十八人の議員により行われました。

数多くの質問の中から、一議員につき一項目を選び、質問と答弁の要旨をご紹介します。

なお、答弁文末の（ ）内は、主な所管課です。

新型インフルエンザ パンデミック対策について

松本 富男 議員

問 ①本市の市民への啓発活動②危機管理としての本市の取り組み③教育委員会の取り組みについて、それぞれ伺いたい。

答 ①いたずらに危機感をおおることのないよう十分配慮し、発生前、発生後の市民としてできる対策などを啓発していきたい。②現在までに、経営戦略会議において知識を深めるとともに、本年二月、課長級職による「新型インフルエンザパンデミック対策庁内連絡会議」を立ち上げた。今後とも、国や県の動向を注視しながら有事の際には、全庁あげてその対策に取り組みめるよう普段から十分な連携強化を図っていきたい。③各

学校へ、「文部科学省行動計画」

や、「埼玉県行動計画」、「新型インフルエンザ予防マニュアル」、「高病原性インフルエンザと学校飼育鶏」等の冊子を配付し、インフルエンザに対する日常の心構えや、鳥や小動物の扱い等について指導を行っている。今後も、文部科学省や県教育委員会、熊谷市医師会の指導を仰ぎながら対応していきたい。（健康づくり課）

○その他の質問項目

「ネットいじめについて」ほか

定額給付金とプレミアム付 商品券の発行について

三浦 和一 議員

問 ①定額給付金の給付計画について、また、プレミアム付商品券の②販売予定時期③販売場所④購入に係る制限⑤市民に対する周知に

ついて、それぞれ伺いたい。

答 ①給付対象者は約二十万六千人であり、三月三十日に約八万千六百人の世帯主の方に申請書を発送する予定である。申請の受付期間は四月六日から十月六日までの六カ月間、給付の開始日は四月二十七日を予定している。

②商品券の販売は、五月十五日から開始し、利用期間は八月三十一日までである。③熊谷商工会議所および三商工会の四つの事務所であり、四カ所で同時販売する。④市内、市外を問わず、どなたでも一人十冊まで購入できる。⑤今月予定されている定額給付金にかかる通知にプレミアム付商品券についてのチラシを同封するとともに、新聞折り込みや市の広報紙など、様々な手段で利用可能な店舗や事業所、販売場所などをお知らせするとともに、のぼり旗やポスターなどでムードを盛り上げていきたい。（産業振興課）

○その他の質問項目

「子育て応援特別手当について」ほか

熊谷市の 農業活性化策について

森 新一 議員

問 ①熊谷市産野菜、米、小麦のブランド化について②農業資材の高騰対策③農産物価格低迷の対策について、それぞれ伺いたい。



めめま物産センター

答 ①平成十九年農林水産物のうち収穫量が県内第一位は小麦、にんじん、やまといもで、米は第三位となっている。これらの評価を高めるため、安心安全な生産工程管理の推進、水稲種子の更新に対する補助や、妻沼地区のやまといも、ネギなどの海外輸出への取り組みに対する支援等を行っている。②畜産の飼料としては自給飼

料の確保が図れるよう飼料用
 稲の作付け拡大を推進している。
 肥料としては、めぬま有機セ
 ンターの堆肥を期間限定によ
 り通常価格の半額で提供する
 など、安価な飼料や肥料の供
 給体制に努めている。③地産
 地消の推進等により地元の農
 産物の販売を促進している。
 今後、国、県から多くの施策
 が出されると予想されるので、
 本市が必要とする施策を選択し、
 積極的に取り入れていきたい。
 (農業振興課)

○その他の質問項目
 「熊谷市の観光について」

**自立支援ネットワーク
 について**

問
 ①平成二十年度末にお
 ける本市の不登校の人
 数②不登校の主なきつかけ③
 若者自立支援の本市の考えと
 必要性、取り組み経過について、
 それぞれ伺いたい。

答
 ①一月末現在、小学校
 十一人、中学校百二十
 七人の計百三十八人である。
 ②考えられる主なものは、無
 気力等の本人にかかわる問題、
 友人関係をめぐる問題など③
 現在、市内の小中学校では、
 子どもたちが将来、社会人・

職業人として自立していくこ
 とができるように望ましい勤
 労観や職業観をはぐくむキャ
 リア教育を進めている。また、
 若者自立支援センター埼玉と
 共催で、平成十九年度から「保
 護者のためのわが子の自立支
 援セミナー」を実施している。
 加えて、三十四歳以下の求職
 者を対象にヤングキャリアセ
 ンター埼玉や県雇用対策課と
 共催で「若者就職応援フェア
 イン熊谷」等の若者の自立支
 援に向けたセミナー等を開催
 している。障害者の一般就労
 については、熊谷市障害者就
 労支援センターで職業相談に
 応じ、就労に向けた支援を行
 っている。
 (学校教育課)

○その他の質問項目
 「利根新橋に関する現況と今
 後の取組について」

交差点の改良について

須永 宣 延 議員

問
 ①市内の交通事故発生
 状況②事故の危険性の
 ある交差点改良の取り組み状
 況③市道交差点改良の今後の
 考え方について、それぞれ伺
 いたい。

答
 ①熊谷警察署の資料に
 よると、平成二十年の
 一年間で人身事故件数は四千
 百五十四件、物件事故が四千
 二百九十七件発生しており、
 平成十九年に比べて人身事故
 で七十四件、物件事故で二十
 一件減少している状況である。
 事故原因としては、わき見等
 による不注意によるものが大
 半を占め、交差点周辺での事
 故発生割合が高いとのことだ
 ある。②緊急対策として、交
 差点予告看板によるドライバ
 ーへの注意喚起や路面標示に
 よる交差点位置の明確化など、
 即効性のある対策を行っている。
 また、道路改良にあわせて、
 計画的に右折帯を設置するな
 ど抜本的な対策を実施している。
 ③平成二十一年度からは安心・
 安全道路ネットワーク整備事
 業を新たに創設し、生活に密
 着した地域幹線道路の整備を
 進め、交差点の安全対策を強
 化していく。
 (道路課)

○その他の質問項目
 「水道水について」



**本市地域ごとの特性を活かし
 雇用とにぎわいの創出を**

杉田 茂 実 議員

問
 ①農業振興整備計画策
 定に向けた進捗状況につ
 いて②農商工連携につ
 いて③豊富な地域資源を生かして
 どのようにとらえているのか
 ④豊かな地域資源を生かして
 農業、水、山林、環境を観光
 に結び付けることについて④
 江南地区のため池の現状と役
 割について、それぞれ伺いたい。



江南地区のため池と水田

答
 ①各調査結果から本市
 農業の総合的評価と地
 域農業振興上の課題を明らか
 にし、平成二十一年度は、今
 年度の調査結果に基づき本計
 画を策定する。②現在、連携
 事業の推進のため、産業祭の
 開催、熊谷小麦産業クラスター

「研究会による熊谷うどんの
 開発やPRの支援を行っている。
 今後は、地域の特産物を活用
 した更なる連携を推進してい
 く。
 ③農業、水、山林、環境によ
 り作り上げられたものの一つ
 に里山が考えられるが、こう
 した貴重な地域特性を観光に
 生かすことは大変重要と考え
 ている。④農業用水として二
 十九のため池のうち二十七が
 利用されており、約八十八ヘ
 クタールの稲作が行われている。
 また、ため池の役割は、農業
 用水・生態系保全・景観形成
 などの多面的な機能があると
 認識している。
 (農業振興課)

○その他の質問項目
 「行政は市民の自治の心をい
 かに支援するのにか」

**雇用と暮らしを守る
 緊急対策について**

林 真佐子 議員

問
 新年度においても、新
 たに雇用を確保するた
 めに国の制度等を活用し、市
 が失業者を臨時的に雇用し、
 つなぎ就労の場を提供するため、
 積極的に役割を果たすことが
 求められているが、この点に
 ついて、どのように考えてい
 るのか。また、中小零細企業

における資金繰りの命綱、無利子融資制度など、制度融資をいっそう拡充することについて、伺いたい。

答

本市では、新たな雇用創出を図るため、新規事業として観光案内業務委託の制度の活用を検討しているところである。また、制度融資において、市税要件を緩和した無利子融資制度の創設については、金融機関への預託金をはじめ、完済者に対する信用保証料補助や利子補給に係る費用、代位弁済が発生した際の損失補償金の市負担分の支出等、制度融資の資金は税金が原資となっており、等を勘案すると、困難である。(商業観光課)

○その他の質問項目

「保育行政について」ほか

公害行政の強化について

高橋 初 議員

問

①上須戸地内の合成樹脂再生工場から発生する騒音などにより近隣住民は十年以上苦しんでいるが、法律違反に対し、市はどのような対応をするのか②廃食用油の回収促進のために収集場所を

増やせないか、それぞれ伺いたい。

答

①合成樹脂再生工場については、粉碎機等の騒音に対する苦情が平成十一年度から継続しているが、この間、騒音測定を十三回、文書指導を五回、更に行政の仲介による当事者間の話し合いも実施してきた。今後も作業方法の改善や新たな防音対策の計画的な実施等について、粘り強く指導していく。②廃食用油の回収については、市報ホームページ等において、廃食用油をリサイクル活動推進奨励金の対象品目に加えた旨周知を図るほか、リサイクル活動団体に直接働きかけるなどしている。今後も団体による回収の輪が広がるよう努めていく。(環境政策課)

○その他の質問項目

「中小業者支援対策の強化について」ほか

水道事業について

新井 昭 安 議員

問

本市総合振興計画の水道事業の施策である安水でおいしい水を安定供給するため水道事業の施策につ

いて、また、県水の購入単価および給水原価、供給単価並びに石綿セメント管更新の完了年度について、伺いたい。



水道庁舎

答

本市の水道は、合併前の事業を引き継ぎ、熊谷大里、妻沼、江南の各水道事業として運営している。これらの四水道事業を本年四月の統合に向け、目指すべき将来像をまとめた「水道ビジョン」と具体的施策となる「水道事業基本計画」を策定し、厚生労働大臣に認可申請をしたところである。また、県水の購入単価は、現在、一立方メートル当たり六十一円七十八銭である。平成十九年度決算における給水原価は百四十七円四十六銭、供給単価は百五十五円三十一銭である。石綿セ

メント管更新については、引き続き国庫補助を受け、平成二十三年度の完了を目標に計画的に推進しているところである。(営業課)

熊谷市の観光事業について

笠原 秀 雄 議員

問

①うちわ祭への本市職員との係わり②祭り執行者や警察からの要望③警備員に代わり、職員を動員した場合の時間外手当等は④他市の状況はどうか⑤本市の取組体制をどう考えるか⑥うちわ祭の将来についてどう考えるか、それぞれ伺いたい。

答

①開催前の広報活動や期間中の違法駐車対策など、約百人体制で取り組んでいる。②違法駐車対策に係る要望があった。③祭りの開催日が週休日の場合、振替による対応とし、通常の勤務時間を超える場合は、時間外勤務扱いとしている。④「川越まつり」約百九十人、「秩父夜祭」約百人、「行田浮き城まつり」約百人、「熊谷市観光職員五人で執務している。⑤うちわ祭は、旧熊谷市街地の八つの町区が輪番により大総代を選出し、祭り

の全てを統括・運営する、自主・自立性の強い祭りであることから、財政的支援を中心としたものだったが、市民および観光客の安全の確保等から、パーク&ライド事業を検討している。⑥うちわ祭の発展のため、執行者側の意向を踏まえて対応していきたい。(商業観光課)

○その他の質問項目

「入札について」

不況対策にもつながる市営住宅の修繕・募集について

大山 美智子 議員

問

空き室の修繕をすすめることは、市内業者の仕事が増え不況対策にもつながると考えるが、①修繕の計画は②募集戸数をふやすことについて、どのように考えているか、それぞれ伺いたい。

答

①毎年度、四十戸程度の修繕を見込み、申し込みの多い住宅から計画的に実施している。②申し込みの状況等を勘案しながら、空き室を有効に活用して、必要な募集戸数を確保していく必要があると考えている。今年度から、募集後、抽選までの間に空き室が生じた場合には、募集戸数に追加するとともに、

抽選後においても、入居希望がなく、空き室が生じた場合は、落選された方に、当日、再抽選するなど、あつせんを
している。今後も、引き続き
入居機会の確保に努める。

(建築課)

○その他の質問項目

「学校の施設補修費の増額について」ほか

循環型社会の実現に向けて

桜井 くるみ 議員

問

環境大臣賞を受賞した山梨県の「NPO法人スペースふう」は、リユース食器の貸し出し事業を起し、市や県の支援のもと、イベントでゴミを出さない取り組みを行っている。熊谷市もイベントでリユース食器の導入や自主的にやろうとする団体への支援をしようか。

答

本市は、ごみの発生抑制と資源循環の推進を図るため「熊谷市一般廃棄物処理基本計画」を策定した。本計画では、「3Rを基本とする循環型社会の構築」を基本理念とし、市民、事業者、市が一体となってごみの減量と資源の有効活用に取り組むこととしており、この計画に

示した政策を積極的に推進することにより、本市における循環型社会の形成を図ってまいりたいと考えている。リユース食器については、先進事例のように、自主的に取り組む団体があるか確認するとともに、本市が行うイベント等で実施が可能かどうか検討していきたい。

(廃棄物対策課)

○その他の質問項目

「障害者の雇用と支援について」ほか

熊谷市の教育について

田島 道夫 議員

問

①二学期制になり、市内の子どもの学力は、どのくらい上がったのか。②市内の小中学校で行われている先進的な取り組みは何があるか、それぞれ伺いたい。

答

①本市では、平成十四年度から二学期制を実施し、授業時間の増加や、各学校間における指導と評価の一本化を図った学習指導の取り組みによって、今年度の全国学力・学習状況調査について、小学校六年生と中学校三年生の国語、算数、数学において、全国平均を上回っている。②二学期制に伴う本市独自の通



小学校の授業の様子

知票は新聞紙上などで全国的に評価されている。また、小中連携個票を活用する不登校対策は、全国各地から視察を受けており、神奈川県や秋田県においても、本市の取り組みをモデルとしていることがインターネット上でも明らかになっている。さらに、中三実力テストを他市町村に先駆けて復活させ、進路指導の査定資料として確かなものとなっている。また、富士見中学校における、特別支援学級に係わる研究は、文部科学省指定となり、全国で唯一の先進的な取り組みとして誇れる実践となっている。

(学校教育課)

○その他の質問項目

「周産期医療の現状について」ほか

緊急経済雇用対策について

大嶋 和浩 議員

問

①これまでの本市の雇用対策②離職者数③国・県の雇用対策の動向④介護職・農業職への就職支援⑤本市の雇用対策は、今後どのように取り組んでいくのか、それぞれ伺いたい。

答

①当面の生活を確保するための支援を目的として「熊谷市緊急雇用対策」を昨年末から実施している。②平成二十一年一月の離職者数は二千三十六人で、前年同月比五二・六%の増加である。③国では、新たに就業希望者を雇用する農業法人等に対し、研修経費を助成する就業支援策を推進しており、県は二、三月に県内数箇所就業相談を実施している。④本市としては、介護職の人材確保は重要な課題と認識しており、老人福祉施設協議会大里支部を通じて、介護職の就職について働きかけていきたい。農業職の求人については、具体的な把握に努め、先進事例等も参考に研究していきたい。⑤県の「ふるさと雇用再生基金事業」等を積極的に活用し、

新たな雇用の創出を図ってきたい。

(商業観光課)

○その他の質問項目

「食と農を活かしたまちづくりについて」ほか

熊谷の教育について

山田 忠之 議員

問

①理不尽と思われる要求等をする保護者に関して報告を受けた具体例②教職員にはどのような対策を講じているか③内閣府の調査で、学力向上に寄与しているのは「塾」と答えた保護者が七〇%いたことについて④学力向上のため本市独自の運営方針を立てる考えはあるか⑤給食時のマナー指導について、それぞれ伺いたい。

答

①通知票の評定が悪いからだと一方的に主張を繰り返し、学校の説明を聞こうとしない例などがあつた。②保護者の訴えに誠実に耳を傾けることや、担任だけでなく、学校全体で対応するように指導している。また、学校だけで解決が困難な場合には関係機関や顧問弁護士と相談するよう指導している。③学校で

の学習は、基礎・基本の定着を目指しており、塾や予備校は効率よく問題を解くことを重要視しているようである。このことから七〇％という調査結果になったものと考えられる。④ 通知票や、学習内容を明確にした授業の展開、学力向上テキストの開発等がある。⑤ 家庭の教えが基本であるが、学校でも発達段階に応じて、基本的なマナーや姿勢の指導を行っている。

○その他の質問項目
「住居表示について」

妊婦健診無料化の更なる拡充について

谷 幸代 議員

問 国は、生活者支援として、現在、五回となつている妊婦健診の助成を本年四月から十四回分まで拡充することとした。そこで、本市が実施している妊婦健診の現状について、伺いたい。

答 現在、本市が実施している妊婦健康診査は、県内統一した実施要領に基づき、医療機関に委託して行う個別健康診査方式により行っている。健診の内容については、問診および診察、尿化学検査等の

基本的な健康診査と血液検査やエイズ抗体検査、子宮頸がん検診等の諸検査を実施するほか、新たに超音波検査の費用を四回分まで拡大し、公費負担することとしている。なお、基本的な健康診査項目については、公費で負担されるが、その分を超える場合には、本人負担が発生する場合もある。この健康診査の初回費用は概ね一万六千円ほどで、二回目以降は平均五千六百円前後になる。また、里帰り先での受診についても公費負担の対象としている

(健康づくり課)
○その他の質問項目

「市民相談の中からく市の寄附金をクレジットカード決済でできるシステムの導入について」ほか

熊谷市の食育について

栗原 健昇 議員

問 平成十七年に食育基本法が施行されて四年目になるが、①本市における学校ファームの取り組み状況は、②学校給食に米飯の回数を増やす意向はあるか、それぞれ伺いたい。



答

①本市の小中学校では、学校農園や地域の方からお借りした農園等で、田植えや稲刈り、サツマイモの作付けや収穫などの体験活動を行っている。平成二十年度は市内十七の小学校が県の学校ファームに認定された。新年度には、小学校に加え中学校も対象となるが、幼稚園等は学校ファーム事業の対象外とされている。しかしながら、食育の目的に鑑み、発達段階に応じて食べる喜びや食物への感謝の気持ちを育てることは重要であり、幼稚園等から取り組みの相談があった場合には、内容に応じて必要な支援を行っていききたい。②各小中学校では、食育について各教科や給食の時間をはじめ学

校の教育活動全体を通して総合的、組織的に指導を進めている。本市における米飯給食の回数は、現在、週当たり二・七回となっており、国の目標値である週三回に近づくよう努力していききたい。
(保健体育課)
○その他の質問項目
「危機管理の中から」

GDP年率十二・七%減と熊谷市勢

滝沢 肇 議員

問 ①市政運営におけるGDP数値のとらえ方②経済支援と財政出動③定額給付金の経済浮揚効果④本市財政の中期展望について、それぞれ伺いたい。



答

①GDPは、自治体経営にとつても、有益な経済指標の一つであると考えられており、年換算マイナス十二・七％という発表については、我が国の経済の悪化が極めて深刻な状況にあるものと認識している。②市税が大幅に落ち込む中にあつても、行財政改革等により蓄えた基金等を十分に活用し、真に必要な施策の実施に果敢に取り組み、市民生活の安定や市内経済の活性化に資するよう取り組んでいきたい。③本市では、地域経済の活性化に資するためプレミアム付商品券の発行を決定した。この商品券の発行に伴う直接的な効果として八億八千万円、国が行った試算に準じて定額給付金の四割が消費に回ると仮定した場合、十二億四千万円の効果が見込まれるとともに、二次的な経済効果を期待している。④今後も税収の減収傾向が続くと考えられ、全体の予算規模は縮小傾向とならざるを得ないものと考えている。
(産業振興課)
○その他の質問項目
「農村整備について」

可決された主な議案

◇平成二十一年度熊谷市一般会計予算

歳入歳出予算の総額をそれぞれ五百五十五億円とするものです。

◇熊谷市自転車放置防止条例の一部を改正する条例

放置自転車等の撤去等に要する費用を新たに徴収するものです。

◇熊谷市廃棄物の減量及び適正処理に関する条例の一部を改正する条例

し尿に係る手数料の額に消費税等相当額を加算するとともに、し尿以外の一般廃棄物に係る手数料に関する規定の整備を行うものです。

委員会での主な質疑

総務文教常任委員会

平成二十一年度一般会計予算(総務費)について

問 広報発行事業の中の委託料について、自治会に対する市報の配布委託料等

が主なものとのことだが、内容について、伺いたい。

答

市報の配布については、本庁舎、各行政センターに納品されたものを各自治会長宅へ届けている。その後、各自治会長から各世帯に配布される。委託料六千二百五十万円のうち、五千二百四十万円を自治会連合会に対する配送委託料として予算計上している。

(所管課・広報広聴課)

福祉環境常任委員会

平成二十一年度一般会計予算(衛生費)について

問

あっぱれ・天晴れ・新エネ・省エネ機器普及推進事業のうち住宅用高効率給湯器設置費補助金一千万円について、対象となる給湯設備はどのようなものなのか伺いたい。

答

今回、補助として考えている給湯器について、大きく分けて三つあり、潜熱回収型給湯器は一万円、ガスエンジン給湯器およびCO₂冷媒ヒートポンプ給湯器は二万円の補助を予定している。

(所管課・環境政策課)

市民産業常任委員会

平成二十一年度一般会計予算(商工費)について

問

プレミアム付きの商品券発行事業について、①商品券の発売前に加盟店を予め周知できないか②商品券の販売場所に、四商工団体のほかに市内金融機関も加えられないか③一人当たりの購入限度額が十万円とのことだが、子供でも一人分として扱われるのか④商品券は公共施設でも利用できるのか、それぞれ伺いたい。

答

①発売前に新聞折込等で広くお知らせしていきたい。②過日、手数料の件で市内すべての金融機関の担当者にお集まりいただいた際、販売の件についてお願したところであるが、即答した金融機関はなかった。③子供でも一人分の対象として取り扱われるものと考えている。④本商品券は、換金性の高い他の商品券、公共料金、風俗営業店舗等の場合には、その利用が制限されるものとしている。

(所管課・産業振興課)

都市建設常任委員会

平成二十一年度一般会計予算(土木費)について

問

県が行っている和田吉野川橋りょう等整備費に対する負担金割合は何パーセントくらいか伺いたい。

答

和田吉野川橋りょう等は、通常の県道整備に対する負担金割合とは異なり、県事業の和田吉野川改修事業に併せて、市道の拡幅あるいは橋りょうの拡幅を行うもので、既存幅員までは県が負担し、既存の幅員を超える部分については市が負担することになる。

(所管課・管理課)



和田吉野川の改修の様子

会議録の閲覧について

市議会では、本会議の様態を記録した会議録を作成しています。

3月定例会の会議録は、議会事務局、市役所情報公開コーナー、行政センター、図書館、市議会ホームページなどで6月上旬から閲覧できます。

詳しいことは、議会事務局までお問い合わせください。

編集だより

ここに、市議会だより第十五号をお届けいたします。本号では、一般質問の要旨をはじめとする三月定例会の概要等を紹介しました。

これからも市民の皆さんと市議会を結ぶ紙面づくりを目指してまいりますので、お気づきの点がありましたら、ご意見等をお寄せください。

議会報編集委員

- ◎泉 二良 ○松本貢市郎
- 田島 道夫 加賀崎千秋
- 小林 甚一 山田 忠之
- 林 真佐子 並木 正一
- 三浦 和一 黒澤三千夫
- (◎委員長 ○副委員長)

